

追探查記

本論の図2に記している滝田坑、衛生坑の追探查を行い、現地を確認することができた。共に現地にはズリが豊富である。鉦山図である図4から読み取れるように、これらの坑口への経路は東側からの山道もあった。母谷沢の上流から延びていると思われる経路である。現在では全く廃道になって居るであろうが。この経路を、有るか無いかの「山道」を、登り上がり、現地に辿り着いた。経路は以下の通りである。

291号の脇にある、道の駅「みなかみ水紀行館」あたりから、関越道の下を通り抜け（道が入り組んでおり、文章での説明はややこしい。道路図等を参照するとよい。）、母谷沢に沿って林道を西へ進んで行く。道は悪くはない。標高640m付近にゲートがあった（図6のG点、写真9参照）。この付近に車を置き、徒歩となる。20分程度進むと、林道は大きく左に曲がっているところに行き着く（図6、7のC点、写真10参照）。ここで林道を外れ、正面の沢へと入っていく。軽い沢である。山道がありそうで、なさそうである。下草、灌木が邪魔かもしれないが、沢に沿って進んでいく。10分程度で右側に、小さな沢筋が見えてくる。本沢を外れ、この小さな沢を登り上がる。10分程度で、鞍部に辿り着く（図7のA点）。この鞍部から、眼下に大きなズリ跡を見ることができる（写真11参照）。

鞍部からはズリ跡へは容易に行ける。衛生坑跡と判断した、広いズリ跡では、重晶石、黒鉦もどきの標本の採集は簡単である。ズリ跡から沢上流部に、斜面から水が流れ出し流路の沢床が茶褐色となっている箇所を見つけた。鉦山図である図4と対照すると、位置的に合致している。入口が完全に潰れてしまった、衛生坑跡と思われる。

衛生坑跡から、辛くも生き残っていたような山道に従って、尾根をまくように西側へ進んでいくと、広い平坦部のあるズリ跡に辿り着く。コンクリート基礎残骸、その上にボルト付きのアンカーもあった。ここは澤田坑跡と断定した。残念ながら坑口跡らしい箇所は見つけられなかった。ズリ跡は広く、標本採集に苦勞することはない。

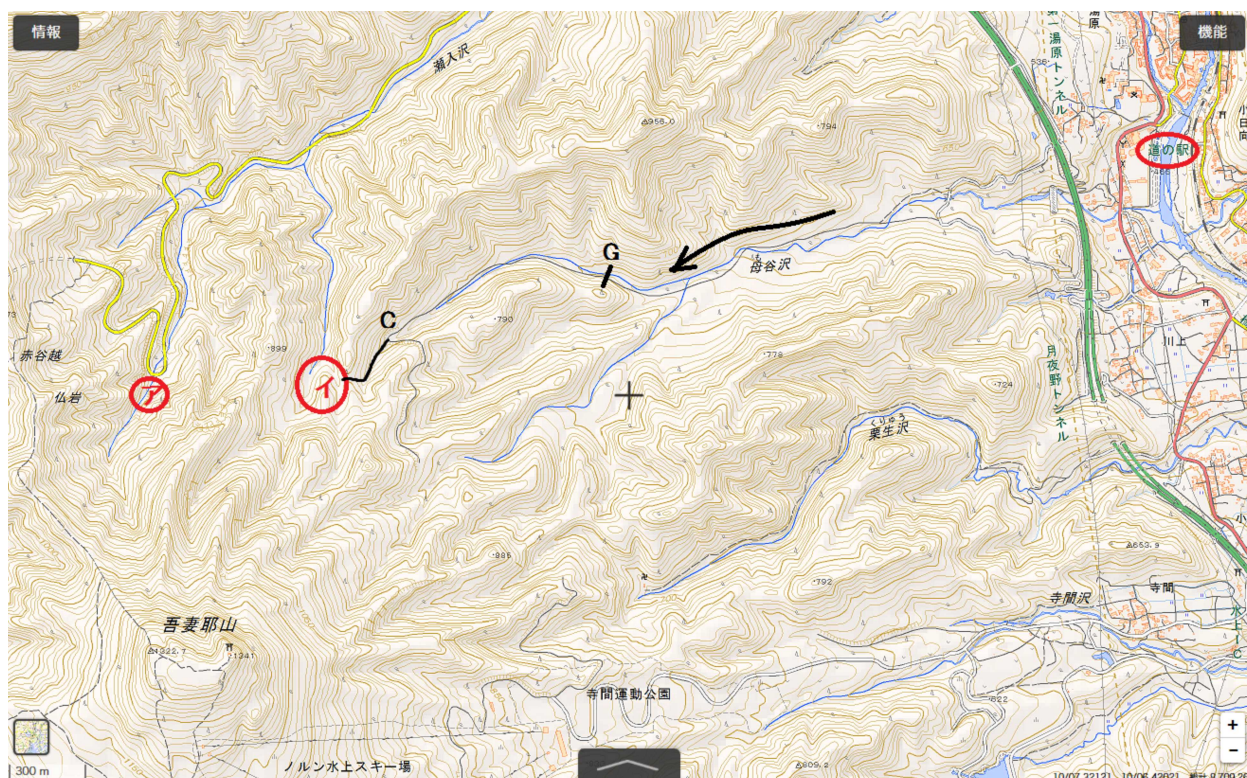


図6 国土地理院の地図サービスより複写掲載。本論の図1などと対照すること。右端の道の駅あたりから、関越道をくぐり抜け、黒色矢印のように、母谷沢に沿って西進していく。Gはゲートの位置。閉まっている場合は、この付近に駐車する。Cは分岐点。大きくカーブしている箇所である。ここから沢に入っていく。丸イは今回の探査箇所。丸アは本論で報告している金山坑跡など。Cから丸イへの経路などについては図7参照。

沢田坑から西方面、及び沢の下流方面への探査は行っていない。従って、それらの状況はわかっていない。現地を訪問した際に、時間があれば、これらの方面を探査してみるもの良いであろう。山道は、下から全く見つからない場合でも、上側ならば、容易に見つかる場合がある。

図1、図4に記した赤丸の場所のうちの吾妻耶山の東部の所のガレ場の探査を目指して、衛生坑と

沢田坑の探査後に、寺間沢上流にあるスキー場に移動した。図1に記されている、山道に従って、徒歩で北方面に進んだ。林道は十分に広い。が、林道の終点は図1に記されているとおりであり、終点となり、それより先には、小さい山道さえ無かった。終点先は急斜面となっている。時間も遅くなったので、ここから引き返した。林道などの現状を確認できたので、それらを参考として、次回の探査に期待をかけることとした。写真地形図である図4のガレ場を、是非とも確認をしたいものである。

2015年9月探査

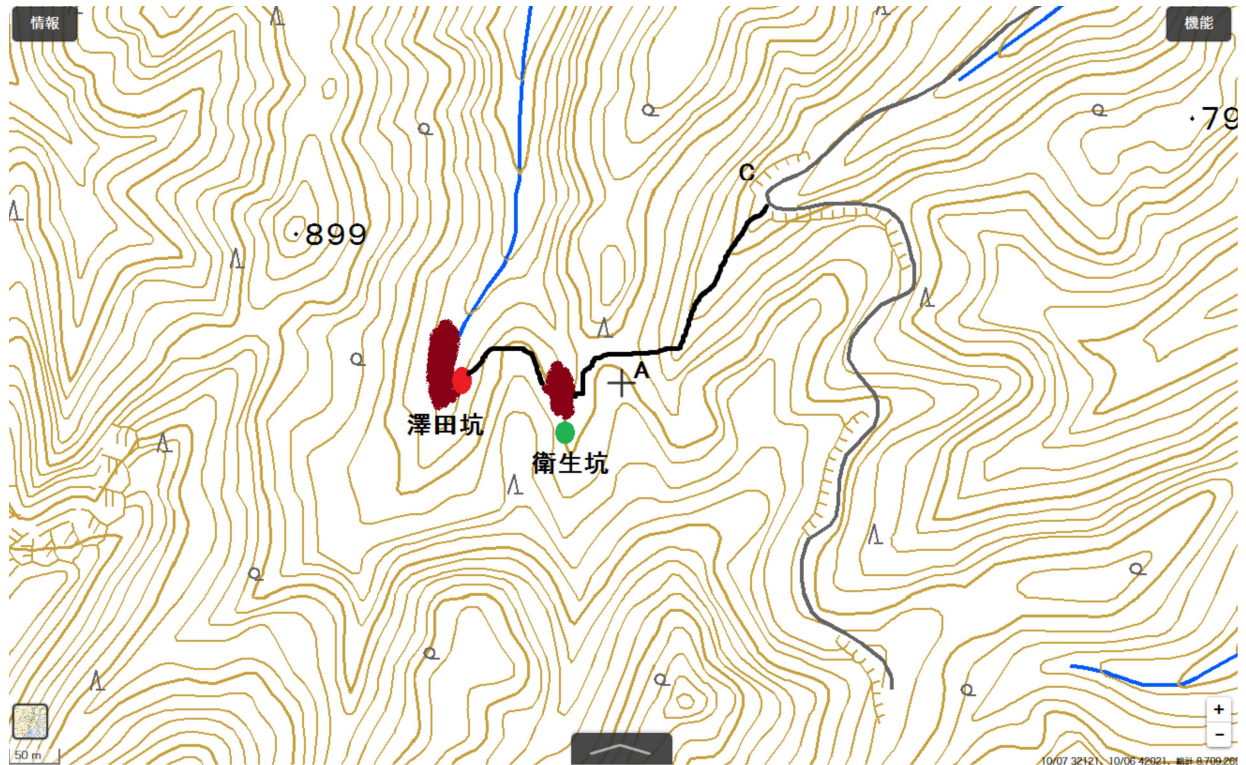


図7 図6の部分拡大図。C点から小さい沢に入り、黒線で記したような経路で、鞍部Aを乗り越えれば、眼前に、衛生坑跡のズリが飛び込んでくる。図中の茶色はズリ、黄緑丸は坑口跡、赤丸は鉱山施設（コンクリート基礎とアンカー）跡。

鉱山跡写真



写真9 母谷沢に沿った林道を進んできた。ゲートが閉じていた。付近の適当な場所に駐車をする。ここから歩く。



写真10 ゲートから20分程度か。林道は左に大きくカーブしている。ゲートが開いていれば、ここまで車で来れそうである。正面に見える小さな沢に入っていく。枯れ沢気味である。下草、灌木が邪魔かもしれない。我慢して進んでいく。



写真11 鞍部から西側を見ている。木々の向こうに大きなズリの山。衛生坑跡と判断した。写真の左部分にろうじて残っている山道が写っている。



写真12 ズリの沢上流部に水が流出している箇所があり、流路が茶褐色に変色している。廃鉱山からの漏水によく見られる。衛生坑口跡であろうと思うが？



写真13 澤田坑跡と思われる箇所にあった、コンクリート基台の残骸。その箇所にはボルト付きのコンクリート台もあった。写真14参照。このコンクリートのある斜面に「滝田坑」跡があるはずなのだが、見つけれなかった。沢の対岸には広い平坦部があった。本論の図4からすると、この平坦部に鉱山施設があったはずである。平坦部の沢側部分は広いズリ跡である。



写真 1 4 写真 1 3 で示したコンクリート残骸の上にあったボルト付きコンクリート台。廃鉱山によくある。隣にある木の太さに時間の流れを感じる。



写真 1 5 澤田坑跡のズリの一部。澤田坑跡には結構平坦な場所があった。この写真では右側の部分。多分ここに建物などを設置していたのであろうと思う。図 4 参照。

鉱物写真



写真 1 4 衛生坑跡のズリから集めた鉱染状の鉱石、重晶石の一葉。標本は豊富である。

参考文献